

令和5年度第1回金沢市用水保全審議会

日時：令和5年10月4日（水） 午前10時00分～11時50分

場所：金沢市役所第一本庁舎7階 第1委員会室

| | |
|------|---|
| 事務局 | ○開会 |
| | ○文化スポーツ局長挨拶 |
| | ○会長挨拶 |
| A 委員 | それでは進行させて頂く。 今回議題として報告案件が5件、審議案件がある。まずは報告案件について事務局から説明を願う。 |
| 事務局 | ○報告案件 「辰巳用水修景整備事業について」「清流確保について」「西外惣構跡(宮内橋遺構)石積復旧工事について」「長坂用水の被災復旧工事について」「用水価値創造社会実験について」の資料説明 |
| B 委員 | 先日、町会連合会で行った前橋の視察の馬場川というところで、歩道を川側に少し拡幅してベンチを設置し、座れるように整備してあった。現在、東別院の周りを見てみるとベンチは何もないが、途中で座りたくなることもあるので、東別院前の整備について、鞍月用水や馬場川の整備も参考に、一直線に整備をするのではなく、変化に富んだ整備もあるのではなかろうか。 また、富岡製糸場にも行き、そこで金沢にも製糸工場があったという話を伺った。確かにかつて金沢製糸場があったことは知っているが、記憶が曖昧である。(金沢に製糸場があったことを金沢の人が知らない。)用水の歴史について、情報発信をしたとの紹介があったが、歴史都市であり魅力を伝える意味でも製糸工場が金沢にあったという歴史のPRを多元的にやって欲しい。 |
| 事務局 | ベンチ等については、歩けるまちづくりや親水性の観点からも貴重な意見としてお伺いした。 また、歴史の側面について、用水と地域の関わりがどのような形であったかという事実を後世に伝えていくことは非常に重要なので、今後、歴史を伝える看板等の設置を含めて検討していきたいと考えている。 |

| | |
|------|---|
| A 委員 | 災害復旧の工事が終わったこと、用水の修景整備事業が大分進んだという報告だった。また清流確保について、堰を設置することで、流れを確保でき非常に良かったと思うが、今後もそういうことが起こらないよう、引き続き監視して欲しい。 |
| 事務局 | <p>報告事項について、補足がある。</p> <p>一つ目は、歴史探訪月間という期間があり、そこで新しくできた金沢美術工芸大学を出発し、元の金沢美術工芸大学に行く、辰巳用水や道中の歴史的な街並みを巡るイベントを行う。</p> <p>二つ目は、清流確保について、近年はどちらかというと排水路的な使われ方をしていた安江町区間の用水を、せっかく修景整備したこともあるので、堰を設けて、是正を行ったということである。</p> |
| C 委員 | <p>社会実験について3点質問がある。</p> <p>一つ目は、椅子とカウンターの数が何台分あったか。</p> <p>二つ目は、川床について、実際その場所で飲食したか、またその滞在時間、アルコールの提供はどうか。</p> <p>三つ目は、主催が金沢市なのか、予算がどうかということ。</p> |
| 事務局 | <p>一つ目の質問について、横長のベンチを2つ、丸いイスを5脚設置し、その他に店舗側が数脚好意で出していたので、総数は把握していない。</p> <p>二つ目の質問について、目安として30分という時間があったが、30分たらずに帰られた方もいれば、30分以上利用する方もいた。飲食については、川床で注文はできないが、持ち込みOKというようにした。</p> <p>三つ目の、主催について、第1段のカウンターと第2段のライトアップはNPOへの委託で行ったため、ワークショップのメンバーと協力はしているが、市が主催ということになる。また、川床については、市が直接業者に発注し設置した。川床の費用については、およそ120万円であった。</p> <p>ライトアップの照明は1基3千円ほどで、3段階に照度調整ができるもの。</p> <p>○ライトアップの構造について図・写真をスクリーンで提示しながら説明。</p> |
| D 委員 | <p>二次元コードについて、私共も事業の検証等で使用していればと考えたりするが、これは外部委託して作ったものか、それとも職員自ら作成したか。</p> <p>それと、アンケートの集計に関して想定しているより多かったかどうかを聞きたい。</p> |
| 事務局 | 作成については、委託したNPOと協力し、お互いに協力して作成した。フリーで二次元コード化を行うことができるサイトがあり、PDFデータさえあれば、 |

簡単に作成できる。

また、集計についてだが、社会実験第1段については、カウンターに二次元コードを貼ってあったが、目立たなかったこともあり、なかなか集まらなかった。

第2段の川床については、滞在時間が長かったこともあり、用水の歴史や豆知識等を見ていただく中で、アンケートを回答していただけたと思う。50～60人程の利用の中で46件はかなり回収率が高かったと考えている。今回の報告は抜粋したものであるが、実際は年代やどこから来たかなど多くの質問があった中での回収率の高さなので、今後このようなアンケート方法も有効と考えている。

補足すると、二次元コードについて複数人で来ている場合、お互いが違う画面を見たりすることがおこる。アナログだが、ラミネート加工したものがあれば、それを見ながら会話するといったコミュニケーションができたと思われる。

F 委員

質問が3点ある。まず川床の設置箇所がある程度限定されてしまうかということ。また、案内を出されていたのか、出されていたならどういった形でされていたか。さらにNPOと金沢市の協働の取り組みというアピールをどうやってやられたかということを知りたい。

事務局

まず、場所についてだが、限定はされる。設置には、用水の広さや深さもあるが、行きつくまでのアプローチが適切な形となるかが重要である。用水には柵があり、設置したい場所に開口や降りる場所があるとは限らない。今回は、東急スクエアの樹木を一時撤去し、出入口を設けた。アプローチの場所が限定されるので、どこでも川床を設置できるわけではない。無理やり階段を造作してつくるということもできるが、その場合費用が相当高くなってしまう。最低限の段差でアプローチできること、イベント場所との近さを考慮して今回の場所を決定した。

次に、案内について、川床の直近にパネルを一つ、また少し離れた場所にもう一つパネルを設置した。パネルや川床を見られる方が結構おられたが、無料であることや飲食の持ち込みOKといったアピールを大々的にしたわけではなく、そういったPRは不足していたと思う。

そのパネルには社会実験は協働で取り組んでいるという紹介は書いてあった。

F 委員

分かった。とても良い取り組みだと一市民として思うので、是非伝わる形でアピールしてくれればと思う。

事務局

補足する。イベント会場から川床が少し見づらい位置にあったため、イベント会場に職員が出向いてチラシを直接配布した。

G 委員

川床利用中に利用者が落ちるといっても考えられる中で、金沢市は保険を掛けたのか。

事務局

社会実験第1段、第2段いずれも保険をかけている。イベント中だけではなく、設置撤去中においてもけがをする可能性があるため、設置・撤去を含めて保険をかけている。

B 委員

用水の自然観察に関する紹介があったが、まさに歴史都市推進課の一番大事なキーだと思う。昨年、村山市長が市長になって初めてタウンミーティングを行ったのが、我々の城南地区であった。その際、弥生地区の町会連合会の方が雀谷川の蛍の生息、唯一中心部に残っている所だが、これを何としても守りたいと熱弁をふるっておられた。その時の市の答えが、ホタルの会に相談してみるといったつれない返事であった。市長が変わったばかりであったため、それ以上言わなかったが、雀谷川は蛍の時期になると子供達も大変喜んでいるので、私としてはまちなかのそういう社会実験もいいと思うが、今地元が熱意のあるところで、蛍をかためた実験か何か、市が一步動くということをやっていただきたい。地元が盛り上がっている。それも蛍である。地域に馴染む。地域が望むのは商店街が望むという話ではなく、地域の中でずっと蛍が生きてきたと。これを守っていくのが弥生の力だと言っている。まちなかだけではない、いろいろなところに文化がある。長坂は長坂の文化があるし、小立野は小立野の文化があるし、そういったものに目を向ける社会実験を是非お願いしたい。

A 委員

続いて、審議案件について事務局から説明を願う。

○審議案件（意見聴取）【非公開】

○歴史都市推進課長挨拶

○閉会